

カトリック八尾教会ニュース



2025年7月
Tháng bảy

【今月の予定】

ミサの時間

【平和月間 7月・8月】

1日(月) 福者ペテロ岐部司祭と187殉教者	7:00	故. パウロ中村三郎神父様帰天(2015. 7. 1)
6日(日) 年間第14主日	10:00	小教区評議会(ミサ後)
13日(日) 年間第15主日	7:00	故.B.ラブレ生藤達男神父様帰天(2022.7.11)
19日(土) 子ども会、初聖体勉強会	10:00	
信仰講座	14:00	
20日(日) 年間第16主日	16:00	
ベトナム語のミサ	7:00	病者のための祈り
27日(日) 年間第17主日	10:00	子どもとともにささげるミサ
	15:00	



【平日のミサ】 木曜日 10:00 3日、10日(17日、24日、31日休み)

■平和月間(7～8月)のテーマと趣旨について

平和月間 2025 大阪高松大司教区



希望と平和の巡礼者となろう
～苦しむ人、悲しむ人とともに歩む道～
Let's be Pilgrims of Hope and Peace
-A path to walk with people who suffer and grieve-



今年から大阪高松教区は二か月にわたる「平和月間」を新しく設けることになりました。ゆとりをもって計画を立て、他教会の企画に参加する可能性も広がると思います。……

今年のテーマは聖年の標語に「平和」を加えたスローガンとし、世界に希望を証しする聖年の恵みの時、特にこの二か月は平和について学び、分かち合い、神様の呼びかけに耳を傾ける機会を皆でもてるようにねがっています。……

(教区、宣教評議会代表者会議資料より一部抜粋)

また会えるでしょう

チェ ジュヨンしんぶ
崔 周永神父

先週は葬儀ミサが続いた。この場を借りて改めてご遺族方にお悔やみを申します。

司祭として、故人の全生涯を神様への捧げものとして纏めあげることの大事さを、葬儀ミサ毎に感じる。その際の説教も簡単ではないが、一番身を張って臨むシーンは以外な処にある。

告別式が終わり、棺に収められた遺骸をお御堂の外に運ぶ場面、其処ではご遺族に十字架とご遺影を持ってもらうのだが、その退堂行列を司祭が真っ先で先導する。ご案内いたしますといった感じで先を歩くわけだが、その気持ちをどのように表現すれば良いかまだ見付けてない。

お御堂では幼児の洗礼が行われ、子供たちの初聖体が、男女の結婚式も、成人お祝いやお年寄りへの祝福など様々な人生の節目が祝われるわけだが、葬儀ミサはいろいろなことを感じさせる。

人間世界において、絶対と言われ得るものはそんなに多く存在するとは思わない。つまり、人間を取り巻いている諸要素において、何が何でもと全てを打ち消しては優先されるものとは、と問われたら、それは死であると答えてあげよう。人間の死を前に、他の人間の営みは暫く止まる。

その死を記念することに、死者を丁寧に見送ることに、死を忍ぶことに全身全霊で臨むのだ。存在していた者が居なくなったこと、その途轍もなく難しい難題に対して、人間は止まって何が起きたかを全存在でもって確かめていく。喪失！そして喪失感。不在！消滅。何十年をも身近で接触していた者がもう其処に居ないこと。元の生活の場に戻っても、ポカンと空いている不在の空間、その自覚と実感は私たちをどれ程悲しませるものなのか！

韓国実家のおふくろに電話を入れたのがもう一年を優に超えていることに最近気づいた。お元気なのか、と電話を掛けることは物理的に至極簡単なわけだが、心底自分をそうさせないもの、その正体は一体何だろう。確かに言えることは、ひとりぼっちの母さんへの慰めは、私ではなく神様であることだ。人間存在、その実存的な苦しみを他人が本人に代わってあげることは出来ない。

独りで立ち向かわなければならない場面が、逃げることも誤魔化すことも出来ないシーンが其処なのだ。もう居ない、あの人は！ その時こそ、人間を超越の概念と感覚へと導き、目に見える世界に留まっていたわたし達を見えない領域へと開いていく。

神よ、あの人は何処に行ったのでしょうか、と。

あなたと共に居るでしょうと。

また会えるでしょう、と。

